

令和5年度第1回国土交通省国立研究開発法人審議会

令和5年8月7日

【事務局】 それでは、定刻になりましたので、国土交通省国立研究開発法人審議会を開催させていただきたいと思っております。本日はお忙しい中、お集まりいただき、ありがとうございます。事務局の総合政策局技術政策課の寺園でございます。どうぞよろしくお願いたします。本日はオンラインによる開催となります。会議中に万が一接続不良等ありましたら、Teamsのチャット機能等で御連絡いただければと思っております。また、議事録を作成する都合上、本審議会は録音させていただきます。あらかじめ御了承ください。参加者の皆様が御発言を希望される際には、Teamsの「手を挙げる」機能等も御利用いただければと思っております。また、御発言の最初にお名前を述べてから、やや大きめ、ゆっくりで御発言いただければと思っております。

次に、配付資料について確認をさせていただきます。こちら、議事次第に配付資料のリストを記載しているところですので、お手数ですが、各自で資料をダウンロードいただき、御確認いただければと存じます。もし何か不都合などございましたら、事務局までお申しつけくださいますようよろしくお願いいたします。

国土交通省国立研究開発法人審議会令に規定する定足数は過半数となっております。本日は現時点におきまして、委員20名中16名の方に御出席いただいております。定足数を満たしていることを御報告いたします。本日御出席いただいている委員の御紹介は委員名簿で代えさせていただきます。

議事に先立ちまして、技術総括審議官の石橋より挨拶を申し上げます。石橋技術総括審議官、よろしくお願いいたします。

【技術総括審議官】 石橋でございます。お忙しい中、本審議会に御出席いただきまして、誠にありがとうございます。この国土交通省の国立研究開発法人審議会では、各法人の業績評価や中長期目標について審議を行っていただいているところでございまして、本日は9回目の開催となります。今年度につきましては、うみそら研の第1期中長期目標の、昨年度終わりましたので、今年度に関しては各土木研究所、建築研究所、うみそら研の昨年度、令和4年度の業務実績の評価の報告に加えて、うみそら研に関しては中長期目標期間の実績期間の実績評価についても御意見をいただければと思っております。既に本

日の審議会に先立ちましては、各部会におきまして委員の皆様方からは御意見をいただき、評価をいただいているところがございますが、改めて御礼申し上げますとともに、また今日、最終的に総会において御忌憚のない御意見、活発な御審議をお願いできればと思っております。本日はどうぞよろしくお願いいいたします。

【事務局】 ありがとうございます。続いて磯部会長より御挨拶をいただきたいのですが、ちょっと確認したいところがございます、今入られた小川幹一郎様という方いらっしゃる、どなたになりますかね。

【海上・港湾・航空技術研究所企画課長】 うみそら研の企画課長です。

【事務局】 申し訳ございません。それでは、続いて磯部会長より御挨拶をいただきたいと思ひます。

【審議会長】 それでは、一言御挨拶申し上げます。新年度を迎えて、新しい委員の方にも加わっていただき、国交省の国立研究開発法人審議会を行いたいと思ひます。この審議ですけれども、それぞれ3つの法人が、よりよい成果を出せるようにということが最終的な目的であろうかと思ひます。そのために、厳正な審査を行ってまいりたいと思ひます。

なお、3つの法人の研究活動、非常に膨大であつて、報告書も分厚いものになっておりますけれども、それぞれ部会で審議が行われているということですから、それに基づいて、この審議会では議論をしていきたいと考えています。限られた時間ではありますけれども、活発な審議をよろしくお願いいいたします。

【事務局】 磯部会長、ありがとうございます。

さて、本日の審議会では、国立研究開発法人海上・港湾・航空技術研究所の第1期中長期目標期間業務実績評価に関する審議を行う予定です。評価に係る審議を公開すると、委員による率直な意見の交換が阻害されるため、評価に係る審議に関しては非公開とすることを会長より御了承いただいております。傍聴はここまでとさせていただきますので、傍聴されている方は御退室をお願いいたします。それでは、傍聴の方々、御退室をお願いします。

(傍聴者 退室)

【事務局】 それでは、本日の議事に入らせていただきます。まず、事務局より審議の流れについて説明いたします。初めに、事務局より先日開催されました各部会での議決事項となっております令和4年度実績評価の報告をさせていただきます。こちら、各部会に

において評価が確定したものの御報告でございます。

次に、今年度は海上・港湾・航空技術研究所の第1期中長期目標期間終了の翌年度に当たるため、前中長期計画期間におけます期間実績評価を審議いただきます。こちらの第1期中長期目標の期間実績評価の審議につきましては、法人からの実績の説明、それに対する質疑を行った後、評価に関する意見の審議の順で進めていきたいと思っております。評価に関する意見の審議の際は研究所関係者には御退室いただきますので、どうぞよろしく願いいたします。

それでは、今後の進行は磯部会長にお願いできればと思っております。磯部会長、どうぞよろしく願い申し上げます。

【審議会長】 それでは、まず、事務局から各部会での令和4年度の年度評価の審議結果について報告をよろしく願いいたします。

【事務局】 かしこまりました。事務局より、各部会の審議結果を御報告いたします。今、画面に表示されております資料1を御覧ください。こちらは、各研究所の令和4年度の評価結果となっております。こちら、まず表示させていただきますのが、建築研究所で総合評定がAということに部会の評価結果はなっております。

次に2ページ目でございますが、こちらは土木研究所の令和4年度の評価結果でございます。こちら、こちらも総合評定、このような形でAとなっております。

さらに、3ページ目でございますが、海上・港湾・航空技術研究所の総合評定も同じくAとなっております。各項目の評価はお示ししてあるとおりでございますので、説明は省略させていただきます。冒頭御説明させていただきましたとおり、こちらの年度評価は部会の議決事項となっておりますので、これらの評価は確定しているところでございます。

簡単ではございますが、年度評価に係る報告は以上でございます。

【審議会長】 ありがとうございます。年度評価については各部会の決定で、ここでは報告事項ということですが、委員の方々、よろしいでしょうか。

それでは、審議事項に入りたいと思っております。期間実績報告の業務の実績について、海上・港湾・航空技術研究所より説明いただき、その後は質疑応答を行いたいと思っております。それでは、海上・港湾・航空技術研究所より20分程度で説明をお願いします。説明が終わった後、すぐに御質問等あれば質問をしていただき、その後、研究所の方々には退室していただいて審議をすると、こういう順番でございます。それでは、研究所から20分間程度の御説明をよろしく願いします。

【海上・港湾・航空技術研究所理事長】 磯部会長、どうもありがとうございます。4月より海上・港湾・航空技術研究所の理事長に就任いたしました庄司るりと申します。本日はお時間をいただき、ありがとうございます。どうぞよろしく願いいたします。

それでは、早速ですが、説明させていただきます。画面のほうでも共有していきますけれども、送らせていただいた資料2、第1期中長期目標期間業務実績の概要資料に沿って説明させていただきます。

最初の1ページですが、右下に番号を記しております。このページ番号で御説明させていただきます。ここのページでは我々の研究所、通称「うみそら研」の評価項目と本資料でのページ番号を示しています。ここに示したように、評価項目は9つあります。Ⅰの項目は研究開発に関する項目でして、これはさらに6つの小項目に分かれております。ⅡからⅣにつきましては、研究開発以外の主に管理部門の項目となります。本日は上の項目から順に、今中長期期間の活動成果を報告させていただきます。なお、時間の関係から各項目等の研究成果のトピックのみ説明いたします。説明するトピックの部分は青枠で囲んでおります。

それでは、1ページめくっていただいて、2ページを御覧ください。このページは、分野横断的な研究の説明となります。中長期計画では、分野横断的な研究の推進に対して2つの項目、上のほうに書いてありますが、(1) 分野横断的な研究の推進と、(2) 研究マネジメントの充実が挙げられています。本日は、(1) 分野横断的な研究の推進の項目を説明させていただきます。

中長期計画では、①の次世代海洋資源調査技術と、②の首都圏空港の機能強化に関する研究開発が挙げられておりました。さらに、今中長期ではこれらの研究を実施した上で、計画以外の研究テーマとして、③の沈船からの高粘度の油の効率的回収を目的としたシステムの開発と、④の大規模災害発生時に生じた傷病者を救急車やヘリコプター、船舶で病院に搬送するときの傷病者の動きをシミュレーションするモデルの開発を行いました。本日は、青枠で囲んであります④について説明いたします。

④のシミュレーションの開発の目的は、地方自治体の防災担当者が災害発生時に、幾つかの被害想定の下で傷病者搬送の計算を行い、その問題点、例えばある病院がすぐ満床になってしまうとか、そこまで行きにくいなどを明らかにして、その解決策を事前に検討するところにあります。域外搬送の拠点となる空港の混雑の程度を推定するモデルは電子研が、港湾の使用可否状態を判断するモデルは航空研が担当して、救急車による搬送のモデ

ルと全体の取りまとめは海技研が担当しました。本研究では、切迫性が高まっています南海トラフ地震の影響を大きく受ける可能性がある高知県と静岡県を対象として、両県の防災担当者と多くの意見交換を行うとともに、様々なシナリオの下で計算を行い、両県に情報を提供してまいりました。また、国が行う緊急支援物資輸送にシステムを拡張して、岡山県、高知県などのトラック輸送業者との実動訓練も実施して、有効性の確認を行ったところです。引き続き、他の自治体への普及を図っていきたいと考えています。

続きまして、次の3ページを御覧ください。船舶等に関する分野の説明をさせていただきます。船舶に関する分野では、中長期計画では上部に示します(1)から(4)の4つの研究テーマが設定されています。本日はこのうち上半分の(1)、海上輸送の安全の確保に関する研究の進展を説明させていただきます。

当研究テーマでは、研究成果の欄に示しておりますように、船体構造設計の効率化・精緻化を図るために、船体荷重と構造強度を一貫して解析するシステム、DLSAと呼んでいます。これを開発しました。本システムは、船体全域にわたる最終強度や疲労寿命の評価を可能とするものでして、網羅的な強度評価と作業コスト低減を両立して、造船所の設計への適用も可能とした世界でも例を見ないシステムとなっております。令和4年度には、腐食板厚衰耗を考慮した座屈強度評価機能、二軸効力の振幅・位相差のマッピング機能、不規則波中計算機能、非線形解析用の有限要素、FEモデルの自動作成機能などを実装しまして、利便性・実用性を向上させました。

また、DLSAとハルモニタリングシステムを統合して、船体全域の応力推定を目的としたデータ同化手法を開発してきました。本手法により、実海域の波浪スペクトル、波浪荷重を良好な精度で推定することを実践データで検証しました。本手法を搭載したデジタルツイン統合システム、i-SASと呼んでいます。につきまして実船で機能及び有用性を検証しました。本研究に関して、査読付論文16件を執筆し、特許2件を出願してきました。さらに、DLSAの社会実装が我が国造船業の国際競争力の向上に寄与したと評価され、海事関係功労者国土交通大臣表彰を受賞しました。また、共同研究を通じて、2社での新船型開発に貢献しました。

続きまして、次の4ページを御覧ください。港湾、空港に関する分野の研究の説明をさせていただきます。港湾、空港に関する分野でも、4つの研究テーマが計画に設定されています。本日は、このうち下側に記載してあります(4)海域環境の形成と活用に関する研究の進展を説明させていただきます。

海域環境の形成と活用に関する研究では、ブルーカーボンに関する研究を紹介させていただきます。ブルーカーボンは海域に吸収される二酸化炭素のことです。10年ほど前から注目されてきました。当時は、海域が二酸化炭素を吸収するのか排出するのか明らかになっていませんでしたが、航空研が世界でも先導的な役割を果たして研究を進めて、海域、特に浅い海が二酸化炭素を吸収することが明らかになってきました。今中長期では、マングローブ、海草、サンゴの複合生態系における生態系間の炭素フローを定量化することにより、ブルーカーボンの定量化モデルを開発しました。さらに、全球動態モデルを用いて二酸化炭素吸収効果を推定しました。さらに、本研究成果の社会実装を加速するため、具体的には、藻場などに吸収されるCO₂の評価手法の精度を向上させるとともに、ブルーカーボンのクレジット評価の仕組みを構築して、クレジット取引を経済的に成立させるため、令和2年度にジャパンプルーエコノミー技術研究組合を設立し、ブルーカーボンクレジット制度を施行しました。令和2年度には1件、令和3年度に4件、令和4年度におきましては21件のプロジェクトの認証につながりました。

続きまして、次の5ページを御覧ください。電子航法に関する分野の研究の説明をさせていただきます。電子航法に関する分野でも4つの研究テーマが計画に設定されており、本日はこのうち、上側に記載しています、(1)軌道ベース運用による航空交通管理の高度化に関する研究の進展を説明させていただきます。軌道ベース運用による航空交通管理の高度化のテーマの下では、航空機運航社がより自由に飛行経路を設定できるフリールート空域の導入に向けた研究を行いました。具体的には、日米間を結ぶ北太平洋空域について、様々な気象条件や交通量を考慮して、フリールート空域の運用拡大が実現可能かどうかというシミュレーションにより検証するとともに、日韓の高高度空域についてフリールート空域を設定し、その効果を試算しました。北太平洋空域におきましてフリールート空域を拡大した場合、効率的な飛行経路の生成が可能となり、消費燃料が削減できるということを確認しました。この成果は、北太平洋空域におけるフリールート空域の拡大に貢献しました。また、韓国の仁川FIRと我が国の福岡FIRを結ぶ高高度空域についてフリールート空域を設定して、その効果を試算したところ、令和元年度の交通量ベースで年間300時間の飛行時間及び4,000トンのCO₂排出の削減が可能であることが分かりました。

次の6ページを御覧ください。研究開発成果の社会への還元の説明をさせていただきます。この項目では5つの小項目、ここに書いてありますように、(1)技術的政策課題の解

決に向けた対応、(2) 災害及び事故への対応、(3) 橋渡し機能の強化、(4) 知的財産権の普及活用、(5) 情報発信や広報の充実などが設定されています。それぞれの小項目に対する活動は、小項目の番号の下に記載してあります。本日は、前半部分の小項目(1)と(2)に関して説明いたします。

(1) の技術的政策課題の解決に向けた対応につきましては、国などからの受託研究を数多く実施するとともに、国などが設置する各種技術委員会へ研究者を多数派遣し、技術課題への支援を行ってきています。また、研究所の研究開発成果の多くが現場や基準に反映されており、さらに国などの技術者を対象とした講演などの講師として研究者を派遣したり技術者を受け入れたりすることなどにより、行政機関等への研究成果の還元を積極的に進展してきたところです。

次に、(2) の災害への対応につきましては、緊急災害対策派遣隊を災害現場へ派遣し、高度な技術力で被災状況の把握や被災原因の解明、災害現場の復旧に貢献してまいりました。海外の甚大な災害におきましても、現地での活動を通じて、復興マスタープランの策定に貢献してきました。また、海難事故におきましては、所内に設置された海難事故解析センターにおきまして、豊富な専門的知見を活用して事故情報を解析し、事故原因の究明に貢献してまいりました。

次の7ページを御覧ください。戦略的な国際活動の推進に関する活動を説明させていただきます。戦略的な国際活動の推進では、(1) 国際基準化、国際標準化への貢献、(2) 海外機関等との連携強化の小項目が設定されています。(1) の国際基準化、国際標準化への貢献では、国際海事機関(IMO)をはじめとする多くの国際機関における国際基準化、標準化に関わる会議へ積極的に参加して、一部の会議では議長、コーディネーターなども務めています。参加者数は、下の表に示しますように、当中長期目標の440人を大幅に上回る数の職員が参加し、7年間で延べ942人が参加しました。また、国際基準・国際標準に係る日本提案文書につきましては、7年間で合計505件提案しており、日本提案の実現に大きく貢献しています。

一方、(2) 海外機関等との連携強化では、学術的な議論を主体とする国際会議における発表数は、新型コロナの影響により、令和2年度に134件の発表の機会損失がありましたが、当中長期目標である1,400件を上回り、7年間で合計1,493件の発表を行いました。国際ワークショップに関しましては、毎年目標の3件以上を開催し、当中長期目標の21回を上回り、7年間で32回開催させていただきました。

8 ページを御覧ください。業務効率化について説明させていただきます。業務効率化では、(1) 統合に伴う業務運営の効率化、(2) 業務の電子化、(3) 業務運営の効率化による経費削減等の小項目が設定されています。

(1) 統合に伴う効率化につきましては、3つの研究所の一括調達を7年間で35件実施し、中長期目標値の30件を達成しました。また、会計システムを統一することにより、決算業務の残業時間を7割削減させました。

次に、(2) 業務の電子化につきましては、統一グループウェアの導入により、会議・打合せのペーパーレス化を進め、コピー用紙の購入枚数を15%削減しました。さらに(3) 経費削減では、管理部門におけるテレワーク環境を整備するために、事務業務を見直し、内部文書の押印廃止などの業務の簡素化を図りまして、テレワーク未対応420業務のうち240業務でテレワーク対応を実現しました。また、研究業務の効率化及び外部へのサービス向上のための研究基盤として、クラウドの整備を進めてまいりました。

次の9ページを御覧ください。財務の改善に関する説明になります。財務では、(1) 予算、収支計画及び資金計画、(2) 運営費交付金以外の収入の確保の小項目が設定されています。(1) 予算収支計画及び資金計画では、1つ目の表に示しますように、予算は適切に管理・執行しております。また、(2) 運営費交付金以外の収入の確保では、2つ目の表に示しております自己収入につきましても基準値を上回る収入が得られております。

最後に10ページですが、その他の項目に関する資料となります。その他の項目では、(1) 内部統制に関する事項、(2) 人事に関する事項、(3) 外部有識者による評価の実施・反映に関する事項、(4) 情報公開の促進に関する事項、(5) 施設・設備の整備及び管理などの小項目が設定されています。

(1) 内部統制に関する事項では、研究所全体の重要リスクの把握及び分析の実施、コンプライアンスマニュアルの見直しを行うとともに、コンプライアンスの違反防止のための研修を年3回、基準としては2回としていましたが、年3回実施しました。(2) 人事に関する事項では、OJTプログラムや各種研修の実施に加え、若手研究者への論文の積極的投稿の指導なども行ってまいりました。

以上で、うみそら研からの説明を終了させていただきます。よろしくお願いたします。

【審議会長】 どうもありがとうございました。それでは、海上・港湾・航空技術研究所の業務実績に関して質問等あれば、お願いたします。なお、御発言に際して、ウェブ会議でございますので、初めにお名前をおっしゃっていただくようお願いいたします。一応、

挙手機能を用いて挙手していただきたいと思います。いかがでしょうか。委員からいかがでしょうか。あるいは、挙手機能のボタンが見つからない方は、直接お話しになっても結構です。 それでは、お願いします。

【委員】 御説明ありがとうございました。説明の7ページになります。戦略的な国際活動の推進の活動なんですけれども、国際基準・国際標準に係る日本提案文書についての提案の数について御記載がございますが、これは実際に採択に至るといのはどれぐらいのものだったのでしょうか。

【海上・港湾・航空技術研究所理事】 うみそら研でございます。戦略理事をしています後藤と申します。よろしく申し上げます。採択数、正確な数、事細かに拾って集計はしてございませぬけれども、今、状況として分かっているところでは、電子研で実施しております国際会議においては、ほぼ提案は採択されているという状況であります。ほかの研究所、詳細な確認は取れておりませんが、一例として御紹介、回答させていただきます。

【委員】 ありがとうございます。

【海上・港湾・航空技術研究所理事長】 ちょっとだけ補足させていただきますと、特に標準化の場合は、長年にわたって議論があるということもありまして、まだ議論中ということもありますし、ディスカッションの上で変えていくということもあろうかと思えます。また、少し何か情報が得られましたら先生方にお知らせしたいと思えますので、よろしく願いいたします。

【審議会長】 ありがとうございます。続きまして、お願いします。

【委員】 ありがとうございます。御説明ありがとうございました。資料の2ページ、分野横断的な研究の推進のところでございますが、本当に素晴らしい成果が出ているとお聞きしております。このような3つの研究所の連携が進んだところを背景として、この資料には出てないんですけれども、事前に頂いた資料では、分野横断的研究推進会議というものがあつたと承知しております。この会議も非常に重要な会議だったんだろうと思うんですが、ここでどのような議論というか、分野横断の取組を行って、今回、このようなよい成果が出たかということについて、推進会議の中身について少し追加で御説明、情報をいただければ幸いです。

【海上・港湾・航空技術研究所研究統括監】 研究統括監をしています藤原と申します。海上技術安全研究所です。この分野横断的研究会議というのは、年4回ほど、理事長の主導の下、開催しておりまして、理事長からトップダウン式に、例えばの話ですけども、洋

上風力発電の保守、メンテナンスが今後研究として大事だろうということで、そういった研究課題を集めるとか、あとボトムアップ式で研究者から研究提案があったりと、そういったものを取り寄せまして、役員の中で今後どうしていくか、どういった方向性にしたらいいのか、研究者を交えながら議論をして、実際の進捗管理、それから来年度の研究の埋め込み等をやりながら進めてきました。もう既に2年ほどやっております、今年度も第1回の研究の分野横断の会議も開催したところでございまして、引き続き私どもも有効な会議だと思っていますので、続けていきたい所存でございます。

【委員】 ありがとうございます。ぜひ続けていっていただきたいと思います。

【審議会長】 ほかにいかがでしょうか。

それでは、私から1つお伺いしたい点が、8ページの業務運営の効率化ですけれども、決算で経常費用、経常収益ともに、年度を追って非常に大きく伸びていると思いますけど、それにもかかわらず、一般管理費であるとか業務経費を圧縮しているという、これは全体の収益を増やすということ、それから一般管理費等の経費を減らすということ、どんな努力をなされたかということについて、簡単に結構ですので教えていただけますでしょうか。

【海上・港湾・航空技術研究所理事】 戦略理事の後藤と申します。どうしても、業務経費、一般管理費を独法としては減少せざるを得ないといったような中で、具体的な活動としては、外部資金の獲得といったところに重きを置いて、そこに努めているといったところがございます。そういう形で、できるだけ研究所として使えるお金を増やしていくといった努力によって、このような数字を大きくできていると認識しているところでございます。

【審議会長】 ありがとうございます。それでは、ほかの委員からいかがでしょうか。よろしいでしょうか。それでは、もしないようでしたら、これで質疑については終了して、海上・港湾・航空技術研究所の業務実績評価の評点に関する審議に入りたいと思います。法人の関係者の方々はウェブ会議場から御退室いただきますようお願いいたします。ありがとうございました。

【海上・港湾・航空技術研究所理事長】 ありがとうございます。

【審議会長】 事務局の方は、退室が終わったら教えてください。

【事務局】 承知いたしました。今、退室の確認をしておりますので、もう少々お待ちいただければと思います。

(法人関係者 退室)

【事務局】 皆様、退室されたことを確認いたしましたので、議論を続けていただければと思います。よろしく願い申し上げます。

【審議会長】 それでは、海上・港湾・航空技術研究所の評定を行います。海上・港湾・航空技術研究所の期間実績評価について、事務局からまず御説明をお願いいたします。

【事務局】 事務局でございます。ただいま資料が画面に共有されましたが、資料3に基づいて事務局より、海上・港湾・航空技術研究所部会の審議結果につきまして御報告させていただきたいと思っております。こちらは、通称「うみそら研」と我々言っておりますが、こちらの第1期中長期目標期間における実績の評価となっております。それぞれ簡単ではございますが、説明させていただきます。

まず、Iと記載しております、一番上でございますが、「研究開発の成果の最大化その他の業務の質の向上に関する事項」の6項目につきましては、A評価となっております。簡単にそれぞれの審議結果、理由を御説明させていただきますと、まず、Iの1ポツ「分野横断的な研究の推進等」、こちらにつきましては、3研究所の専門的知見が生かされまして、中長期目標以上の研究成果が多く見られるなど顕著な成果が認められることから、A評価とさせていただきます。

次に、2ポツの「船舶に係る技術及びこれを活用した海洋の利用等に係る技術に関する研究開発等」、こちらにつきましては、査読付論文の数を徐々に増加させていることや、多くの国際ルールづくりに貢献していること、また、海上輸送の安全の確保のための様々な開発や実装により社会的なニーズに対応するというだけではなく、価値のある研究成果を上げていることなど顕著な成果が認められるところから、こちらの2ポツ、A評価となっております。

次に、3ポツ目「港湾、航路、海岸及び飛行場等に係る技術に関する研究開発等」につきましては、国の方針に適合した成果が多く、特にブルーカーボンについては長期の研究成果が結果に結びついていることなど顕著な成果が認められることから、こちらもA評価としております。

次に4ポツでございますが、こちら、「電子航法に関する研究開発等」につきましては、国の方針や社会ニーズに沿ったものであり、軌道情報の活用による航空交通の最適化などの成果が行政施策に反映され、航空交通の安全安心の確保、効率向上、環境負荷の低減など多方面にわたり貢献していることなど顕著な成果が認められることから、こちらの4ポツもA評価としております。

5 ポツ目でございます。「研究開発成果の社会への還元」につきましては、国の基準、ガイドライン等の策定や民間等との共同研究による産官学連携にも積極的に取り組んでいることなど顕著な成果が認められることから、A評価としております。

ローマ数字Ⅰの最後の6ポツでございますが、こちらの「戦略的な国際活動の推進」につきましては、多くの国際機関で高い評価を得ていることや国際的なルールづくりや国際連携もリードし、非常にレベルの高い活動を行っていることなど顕著な成果が認められることから、こちら、A評価としております。そのほかのⅡ、Ⅲ、Ⅳで記載しておりますⅡ「業務運営の効率化に関する事項」、Ⅲ「財務内容の改善に関する事項」、Ⅳ「その他の業務運営に関する重要事項」につきましては、中長期目標期間における基準をクリアしていると認められることから、A評価ではございませんが、こちらは着実に進捗しているB評価ということになっております。

以上のこれらのものの評価を踏まえまして、総合評定はA評価となっております。海上・港湾・航空技術研究所の期間実績評価に係る報告は以上でございます。よろしくお願いたします。

【審議会長】 どうもありがとうございました。それでは、海上・港湾・航空技術研究所の期間実績評価に関して質問等あればお願いいたします。よろしいでしょうか。お願いします。

【委員】 うみそら研、この評価の担当もさせていただきました。今、事務局からの御説明のとおりでございますが、特にⅡ、これについてはAとBについてはかなり議論が分かれた。計画は、実際にやっていただいたんですが、それ以上卓越したものがあるかどうかというのは、業務上なかなか評価しづらいところもあったり、議論が分かれたところでございますが、今回、Bということでございます。研究業績に関しては非常に高いもので、特に国際性などは高く評価いただいたところでございます。

追加情報です。

【審議会長】 ありがとうございます。Ⅱについては議論が大分あったところで、結果として、部会としてはBということだそうです。ほかにいかがでしょうか。よろしいでしょうか。それでは、特段、この原案に関して疑義がないということであったかと思しますので、海上・港湾・航空技術研究所の期間実績評価の総合評定については、項目ごとの評定に基づいて、全体としてA評価とさせていただきたいと思いますが、いかがでしょうか。よろしいでしょうか。

(「異議なし」の声あり)

【審議会長】 ありがとうございます。それでは、海上・港湾・航空技術研究所の実績評価の総合評価はA評価とさせていただきます。

なお、評定理由等につきましては、これまで部会等も含めていただきました皆様の御意見を基に事務局で整理をしていただいて、後日、委員の皆様にご確認していただきたいと思っております。よろしくお願いいたします。

それでは、これで本日の議事は終了いたしました。進行を事務局にお返しいたします。皆さん、どうもありがとうございました。

【事務局】 磯部会長、ありがとうございます。そして、本日御参加の皆様、ありがとうございます。少し予定していた時間の前ですが、これで会議は終了させていただきますと思っておりますが、最後に事務局より連絡事項が2点ございます。

1点目といたしましては、本日の審議の取りまとめ、すなわち、今最後に見ていただいた資料3及び、様式になりますが、資料4の業務実績等報告書別添のうち、委員の御意見を踏まえて記載すべき項目につきましては、本日の御意見を踏まえまして、事務局で案を作成し、会長と調整した後、委員の皆様にお示しした上で委員の皆様の御確認をいただき、評価結果を大臣に報告していくということになります。その後、審議会の御報告を踏まえた大臣評価を行い、公表することとなります。なお、委員の皆様からいただきました御意見につきましては公表されますので、御了承いただければと思います。

また2点目、本日の議事録につきましては事務局で案を作成し、各委員に確認後、発言者の名前を伏せさせていただきますして公表させていただく予定です。

それでは、これで国土交通省国立研究開発法人審議会を閉会したいと思います。本日はどうもありがとうございました。

— 了 —